

品物に宿った思いを形を変えて残す、 それがリサイクルの楽しさ



水町洋子さん(左)、瀬戸口有子さん(右)

仕事でもプライベートでも裁縫を通したリサイクルを楽しむお二人。

中学の時から裁縫が趣味で、今や仕事でもプライベートでも裁縫を楽しんでいるという水町さんと、専門学校で学んだのをきっかけに裁縫の世界にのめり込んだという瀬戸口さん。お二人は得意な裁縫を活かして、古い布や着なくなった服を作り変えてリサイクルを楽しんでいます。

同じ職場で約20年働くお二人はお互いに作品を披露しあうリサイクル仲間です。その作品はまるで着なくなった服から作られたとは思えないほど

デザインも作りもしっかりしています。「特にお気に入りなのは、嫁入り道具で母に持たせてもらった着物をリサイクルした洋服です。着物だと着る機会が少ないので思い切って洋服に作り変えたら気軽に着れるようになりました！今日着ているものも着物を洋服に作り変えたものなんですよ」と話す水町さん。同じようにリサイクルした洋服を家族や親戚にも送り、とても喜ばれているそうです。

瀬戸口さんは娘さんが大量に持つてくるという不要な服をリサイクルするのが楽しいと話されます。「着られなくなった服を捨てるだけだともったいないし、作り変えることでまた違う形で楽しめます。物に宿った思いを形を変えて生かすのがリサイクルの楽しいところです」と瀬戸口さん。お二人の様に裁縫が得意でなくても、捨てようとしていた服を裁縫が得意な人に作り変えてもらって新たな形で楽しむというリサイクルの楽しみ方もあるのかもしれない。



日焼けして色が変わった白い服も染色してリサイクル。また違った雰囲気を楽しめるように。



大切にしまいがちなものも、使いやすい形に変えればより思いが生きる。



今日から始めよう!
簡単リサイクル術

時間が経って飲めなくなったコーヒー豆や抽出後のコーヒー豆はビンに詰めかえて消臭剤にリサイクル!

